

大規模災害に備えましょう

来月で東日本大震災から2年になろうとしています。地震の被害に遭われた皆様にあらためて心よりお見舞い申し上げます。糖尿病センターでは、昨年からの災害対策に取り組んでおり、今回はお薬について考えてみましょう。

●災害とくすりについて

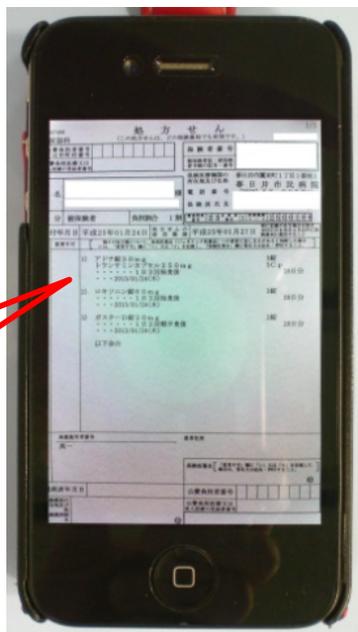
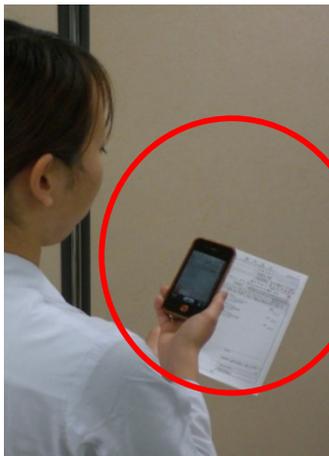
糖尿病患者さんのなかにはインスリンや飲み薬が絶対に必要な患者さんがみえます。特に1型糖尿病患者さんは、インスリン注射を打たないと血糖が高くなりすぎて、命にかかわることがあります。東日本大震災の2日後には、日本糖尿病学会や日本糖尿病協会により災害対策支援チームが設置されました。しかし、これらの援助が災害地まで届くにはさらに時間がかかると思われます。そのため、少なくとも数日間は無助の努力により危機を回避することが必要になります。さらに自宅以外の場所で被災することもあるので、通勤通学先にも薬の備蓄をしたいところです。

●もしもの場合に備えて

災害時に薬を持ち出せなかった場合に備えて、インスリンや飲み薬の名前や種類使用単位がわかるようにしておくことが大切です。東日本大震災において津波被害があった自治体の報告では、3割の方が薬を持ち出す事ができませんでした。そういった方は避難先で薬を入手する必要があります。しかし、薬の名前を全て言える方は少ないのではないのでしょうか？救護所には多くの薬が届き、薬が不足することはありませんでしたが、今まで飲んでいた薬がわからないことによって薬が代わり、血糖値が不安定になった方がいました。そのため、ご自身が普段使っている薬がわかるようにしておくことが大切です。

●お薬手帳や携帯電話を利用しましょう

- ✓ お薬手帳や薬の説明書を防災バッグの中、お財布の中など、分けて保管することによって、災害による紛失を防ぐことができます。
- ✓ 携帯電話を持ち避難された方は、8割にのぼると聞いています。携帯電話を利用して、薬剤の写真や名称が分かるようにしておくことをおすすめします。
 - ・薬の写真を撮る
 - ・処方箋の写真を撮る
 - ・薬の名前をメモしておくなど



糖尿病瓦版

平成二十五年二月版（隔月発行）
春日井市民病院
糖尿病センター発行

薬剤師
服部 田中 大岩